

(ノート)

## 佐賀県玄海地区におけるカサゴ漁獲量の推定

古川泰久・金丸彦一郎\*

### Estimate of the Catches of scorpionfish, *Sebasticus marmoratus* in the Genkai Area, Saga district

Yasuhisa FURUKAWA and Hikoichirou KANAMARU\*

キーワード：カサゴ，水揚量，アンケート調査，漁獲量の推定

佐賀県玄海地区では、カサゴは“あらかぶ”という地方名で呼ばれ、刺網、釣り、延縄などで漁獲される重要な魚種の一つとなっている。2002年に漁業者を対象に放流魚種の要望に関するアンケート調査を実施した結果、カサゴの放流要望が第1位と最も多く、放流が強く期待される魚種<sup>1)</sup>で、現在、栽培漁業対象種として種苗放流が行なわれている<sup>2), 3)</sup>。

一方、当地区でのカサゴの漁獲量は、佐賀県農林水産統計年報で集計されていないことから把握することはできない状況にある。

佐賀県玄海海域で実施されているカサゴの放流効果算定のため、漁獲されるカサゴの多くが水揚げされている唐津港の水揚量を把握するとともに、関係漁業者への出荷状況に関するアンケート調査結果を実施して、県全体のカサゴの漁獲量を推定したので報告する。

#### 材料および方法

##### 1. 唐津港水揚量

佐賀県玄海地区にある2つの主要な市場である玄海漁連魚市場（現在は玄海漁協魚市場、以下漁連魚市場と略す）と株式会社唐津魚市場（以下、唐津魚市場と略す）におけるカサゴ水揚量について、2003年から2008年までの6カ年間について集計し、唐津港水揚量とした。漁連魚市場については、毎日の水揚伝票から水揚箱数を抜き出し、箱あたりの重量を乗じて水揚量を集計し、唐津魚市場については、月報から水揚量を集計した。

##### 2. アンケート調査

漁連魚市場のカサゴ地区別水揚量が多い、唐津市漁協（現在は玄海漁協唐津市統括支所）の唐房、満島、高島、湊浜の各支所、呼子町漁協（現在は玄海漁協呼子町統括支所）、仮屋漁協、肥前漁協（現在は玄海漁協肥前統括支所）、波多津漁協（現在は玄海漁協波多津支所）のカサゴを漁獲対象とする漁業者計50人に、カサゴの資源状況および漁連魚市場に出荷したカサゴの出荷重量の割合についてアンケート調査を実施した。

調査結果は、市町村合併前の旧唐津市を「上地区」、旧呼子町と旧鎮西町を「中地区」、玄海町、旧肥前町と伊万里市を「下地区」として地区毎に出荷重量の割合を算出した。

**漁獲量の推定：**アンケート調査結果から算出された上地区、中地区、下地区別の漁連魚市場への出荷重量の割合をもとに、2003年から2008年の地区別水揚量を出荷重量の割合で引き延ばし、県全体の漁獲量を推定した。

#### 結果および考察

##### 1. 唐津港水揚量

2003年から2008年までの6カ年間について、唐津港におけるカサゴの年間水揚量を図1に示した。唐津港におけるカサゴの水揚量は20～41トンの範囲で推移し、2003年以降減少傾向にあった。

唐津港の水揚量に占める漁協魚市場の割合は約95%を占め、唐津魚市場は少なかったことから、漁獲量の推定には、漁連魚市場への出荷重量の割合を用いた。

6カ年間について、漁連魚市場におけるカサゴ水揚量の

\*現 海区漁業調整委員会事務局

地区毎の割合を表1に示した。上地区の占める割合は12.4～15.8%（平均13.7%）、中地区の占める割合は24.6～41.3%（平均31.5%）、下地区の占める割合は34.5～43.0%（平均41.3%）で推移した。

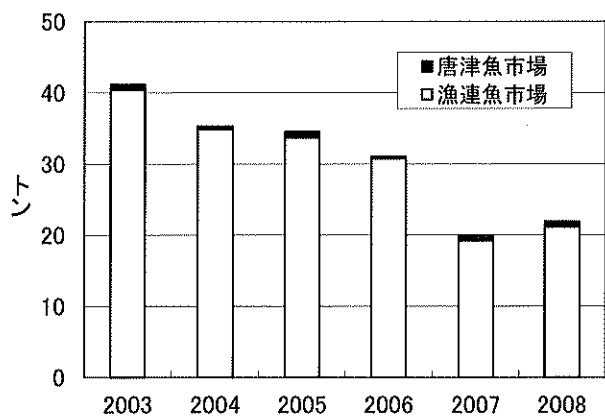


図1 唐津港におけるカサゴの水揚量

表1 漁連魚市場におけるカサゴ水揚量の地区別割合 (%)

	2003	2004	2005	2006	2007	2008	平均
上地区	12.4	13.3	15.8	13.4	13.5	13.9	13.7
中地区	27.2	24.6	31.4	30.9	33.6	41.3	31.5
下地区	41.5	43	34.7	34.5	37.7	40.3	38.6
その他	18.9	19.1	18.1	21.2	15.2	4.5	16.2

## 2. アンケート調査

調査の結果、上地区21名、中地区5名、下地区12名の合計38人からの回答があり、回収率は76%であった。

資源状況については、減っているが20名（53%）、非常に減っているが12名（32%）との回答があり、ほとんどの漁業者は資源量の減少に危機感を持っていた。

出荷先については、漁獲したカサゴを漁連魚市場に、全て出荷するが17名、およそ2/3出荷するが2名、およそ1/2出荷するが2名、およそ1/3出荷するが4名、少し出荷するが4名、全て漁連魚市場以外に出荷するが9名であった。

地区毎に漁連魚市場へのカサゴの出荷重量の割合を算出したところ、上地区では67%、中地区では40%、下地区では55%のカサゴが漁連魚市場へ水揚げされていた。

漁獲量の推定：2003年から2008年の漁連魚市場へ出荷される地区別水揚量を地区毎の出荷割合で引き延ばした推定漁獲量を図2に示した。

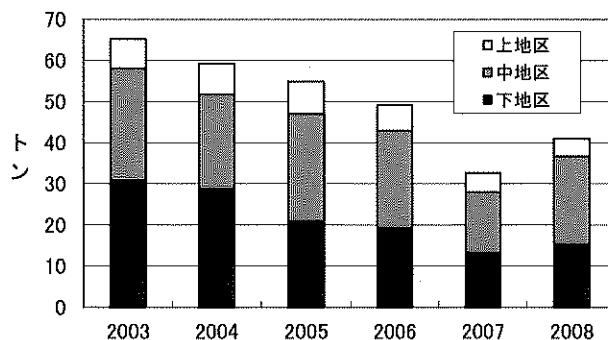


図2 カサゴの推定漁獲量

佐賀県玄海地区におけるカサゴの推定漁獲量は33～65トンの範囲で推移しており、唐津港水揚量の1.6～1.7倍と推定された。推定漁獲量における漁獲割合は中地区と下地区で全体の80～90%を占めていた。

現在、当県玄海地区全域で行われているカサゴ放流事業の効果を把握するためには、今回の漁獲量の値を踏まえて推定する必要がある。一方、カサゴは遊漁による採捕については検討を行っておらず、今後把握していく必要がある。

## 文 献

- 1) 野田進治・古賀秀昭 2003：漁場利用等に関するアンケート調査。平成14年度佐賀玄海水振セ業報，94-114。
- 2) 金丸彦一郎・古川泰久 2010：カサゴ種苗の放流マニュアル。平成20年度佐賀玄海水振セ業報，41-44。
- 3) 金丸彦一郎・古川泰久 2010：カサゴ種苗の中間育成マニュアル。平成20年度佐賀玄海水振セ業報，39-40。